

## 「エネルギー測定器の”今“を検証する」シリーズ・第1回 「バイオリゾナンス系デバイス」

近年、エネルギー測定器（デバイス）は欧米だけでなく、日本においても急速な広がりを見せております。昨年のシリーズで取り上げましたエネルギー医学のバイブル的存在の『エネルギー医学の原理』（エンタプライズ）の「英語版の第2版」においても、エネルギー機器に関して大幅に加筆されています。テクノロジーの進化とAIの発達とともに「エネルギー医学」において、これらデバイスはなくてはならない存在になりつつあります。そのような世の中に潮流を受けて、日本で普及しているデバイスを取り上げ、その機能や原理、臨床の検証に迫ります！

毎回、ダイアログには、理学博士の根本泰行氏に加わっていただきながら、しっかりと追究していきます。

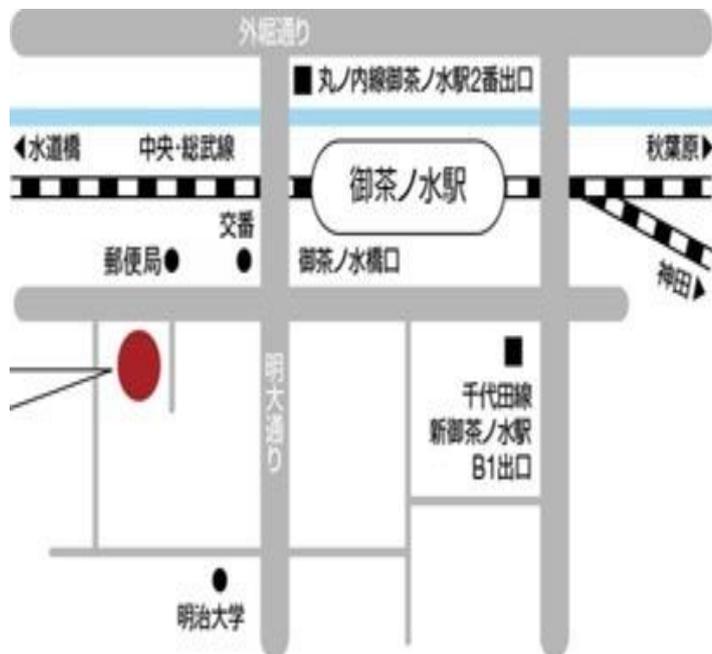
★13：15～14：25 「ドイツのパウル・シュミット式バイオリゾナンス」 熊田洋子（ドイツ振動医学推進協会 日本支部） & 野呂瀬民知雄（ベレンクラフト）

レヨネックスの創始者であるドイツのパウル・シュミットは動物、植物をはじめ、有機・無機物質が有する振動を0～100までの周波数として数値化しました。彼が開発した振動測定器レヨコンプを使い、レゾナンスと呼ばれる共鳴現象で「気」の滞りがある場所に対して調整しエネルギーのバランスを整えます。

★14：35～15：45 「米国 Carolyn McMakin のFSM メソッド」 寺岡里紗（Info Therapy セラピスト）

FSM (Frequency Specific Microcurrent) メソッドは米国のカイロプラクティック医師キャロリン・マクマーキンによって開発されました。FSM メソッドという特定の非常に微弱な周波数を使った「状態」と「組織」の周波数を同時に流すことで短時間でヒーリングメソッドを開発しました。難病に対しても多くの臨床と研究結果をもつFSMの実態を検証します。

★15：55～16：45 スピエネット対話<ダイアログ>熊田洋子 × 野呂瀬民知雄 × 寺岡里紗 × 根本泰行  
第1回目は、「周波数」と「レゾナンス」にフォーカスしたデバイスについて理解を深めます



■日 時:2019年 10/5(土)13:15～16:45

■場 所:ワイル御茶ノ水貸会議室 ルームB  
千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 4F  
(ビル入口は手前の路地に入り、奥右手に見える三角屋根のところです。)

■参加費:  
シリーズ全4回 ①会員10,000円 ②一般 14,000円  
今回のみ参加 ③会員 3,000円 ④一般 4,000円  
\*会員とは主催、共催、協力団体の会員を指します。

### ■申し込み手順

1. 必要事項(1氏名、2住所、3電話、4E-mail、5所属(①会員(団体名)・②一般)を、ho-kanto@tg.rim.or.jpへ(締切 9/27(金))。\*または、FAXで 03-5572-8219まで。(当日のみ携帯:080-5484-8008)
2. 申し込み受理のお知らせ到着後1週間以内にお振込み下さい。三菱UFJ銀行 西新宿支店(普通)0057567 特定非営利活動法人日本ホリスティック医学協会
3. お振込み後、受付完了となります。お振込後の参加費はご返却できませんので代理受講でご対応をお願い致します。

<主催>NPO 法人日本ホリスティック医学協会関東フォーラム委員会 (生活習慣病予防指導士3単位)

<協力>日本アントロポソフィー医学のための医師会、日本ソマティック心理学協会、NPO 法人日本ヒーリングタッチ協会、NPO 法人サイレントン療法協会、日本トランスパーソナル学会

## <2回目以降のスピエネット連続フォーラムの日時・内容>

全4回：主催・共催・協力団体の会員 10,000円、一般 14,000円

各回：主催・共催・協力団体の会員 3,000円、一般 4,000円

### ★フォーラムⅡ：2019年12月7日（土）13：15～16：45（会場：ワイム御茶ノ水）

#### “極低周波の振動を使ったヒーリングデバイスと測定器”

##### ・「“エドガー・ケーシー”直伝デバイス-インピー・ダンス」光田 秀（NPO 法人日本エドガーケーシーセンター会長）

ケーシー・リーディングの中で説かれた最も興味をそそる器具の1つである、インピー・ダンスについての知見。もっとも低い電氣的波動を与えることで、肉体に必要な刺激を与え、活動を続行するための内的能力を回復させるインピーダンス装置（放射活性装置）は使う人に癒しと、肉体、精神、霊のエネルギーの再生化を行います。

##### ・「“量子波動器”メタトロン」吉川忠久（一般社団法人日本IPPメタトロン協会 理事）

メタトロン（MTR）は、微細磁場での極低周波数を利用し、1990年に設立された The Institute of Practical Psychophysics（IPP）での膨大なデータベースを分析処理することにより、計測した身体の様々な状態を知る、エントロピー測定機器。全身の生体磁場エネルギー情報を読み取りアセスメント（評価）し調整もします。

##### ○スピエネット対話<ダイアログ> 光田 秀 × 吉川忠久 × 根本泰行

それぞれのデバイスの技術的なメカニズムとその効果について具体的に検証します。

### ★フォーラムⅢ：2020年2月1日（土）13：15～16：45（会場：ワイム御茶ノ水）

#### “日本製-波動機器の流れと特徴”

##### ・「“波動医学”から生まれた“G-WAVE”」 於久田英俊（G-wave 本社代表取締役）

1960～70年代獣医師松浦優之氏がカナダの獣医大学時のチームはAWGという段階的素粒子波動発生器が開発され、大きな成果を出したが、その後チームは解散、今では伝説的に語られているデバイスの1つです。帰国後独自で開発、改良を重ねて実用化され、現在その流れを汲んだG-Waveについて、その事実と真相について検証します。

##### ・「波動測定器“数霊システムセラピー”」 吉野内聖一郎（IHM ドルフィン代表取締役）

日本では元祖、波動測定器とも言えるMRAはその測定の精度の難しさゆえ、職人芸的な熟練が必要ですが、そのエキスパートであった吉野内聖一郎氏が、このデバイスに自動化システムを導入、現代的に改良されたのがこの「数霊セラピーシステム」です。このデバイスは宇宙の法則を数で表現した魔法陣の法則を取り入れています。

##### ○スピエネット対話<ダイアログ> 於久田英俊 × 吉野内聖一郎 × 根本泰行

日本製の機器としての歩みと臨床、日本人ならではの波動についての考え方や効果などを深めます。

### ★フォーラムⅣ：2020年4月4日（土）13：15～16：45（会場：未定）

#### “情報医療～エネルギーと情報の測定器～”

##### ・「“情報フィールド”を測定するNESシステム」 寺岡丈織（NES HEALTH JAPAN）

情報医療を提唱する開発者ピーター・フレーザーが開発したシステム。人間のエネルギーフィールドを情報として階層構造に分類することで、物理的な身体情報から潜在意識レベルまで包括的に分析、調整を行うシステム。分析結果を絶対値ではなく相対値として検出し、今現在の調整優先度をシンプルかつ明確に画像とともに表示します。

##### ・「“情報を12次元階層から分析”TimeWaverシステム」 寺岡里紗（Info Therapy セラピスト）

ドイツ発の情報医療を基本とした測定器。物理学者ブルクハルト・ハイムが提唱するエネルギーの12次元構造に基づいたエネルギーの分析をするために2つの物理的な構造—LQR装置（フォトンの照射）とノイズ・ジェネレータを使うことで実現。それにより物理レベルのエネルギーから、潜在意識、トラウマ、スピリチュアルレベルに及ぶ測定をします。

##### ○スピエネット対話<ダイアログ> 寺岡丈織 × 寺岡里紗 × 根本泰行

情報医療としてのデバイスであるこれらの測定器と他との違いや機序、臨床、効果について深めます。